

# 新潟県魚類目録補訂(II)

本 間 義 治

(新潟大学理学部生物学教室)

Further additions to "A list of the fishes collected in the  
Province of Echigo, including Sado Island" (II)

Yoshiharu HONMA

(Dept. Biol., Fac. Sci., Niigata Univ.)

著者が前報<sup>1)</sup>までに発表した本県産の魚類は、406種にのぼるが、その後新潟県水産試験場および両津高等学校(佐渡)の所蔵標本を査定する機会を得、なお未記録の標本を発見できたのでこゝに報告する。採集地はいずれも佐渡、粟島周辺の海域であつて、以東機船底曳網によつて捕獲されたものと、磯採集によつて得られたものである。この中1種は、著者の古い蒐集品を再査定したもので、記載に用いた標本は、すべて新潟県水産試験場と当教室に保存されてある。

この研究を通じて御指導、御校閲の労を取られた当教室平坂恭介教授に衷心より御礼申しあげらる。なお絶えず御教示と御高配をたまわつている京都大学教授松原喜代松博士に深く感謝の意を表わすとともに、標本査定の機会を与えられた、丹羽正一、大川泰二、北見秀夫の諸氏に感謝する次第である。

## 増 補

本篇において追加せんとする種類は次の12種である。

### Family Rajidae

Genus *Breviraja* BIGELOW and SCHROEDER, 1948

1. *Breviraja isotrachs* (GÜNTHER) ソコガンギエイ

*Raja isotrachs* GÜNTHER, 1887, Deep-Sea Fish, Challenger, p. 7, pl. 3, South of Japan.

産地: 越後角田沖(釧路, 室蘭, 紋別, 船川, 舞鶴, 隠岐等に分布)

体盤はほぼ菱形, 吻は短かく鈍く, 両眼隔の2.63倍。尾は頗る長くその長さは体盤の1.10倍。両胸鰭外角を結ぶ線は, 体盤の中央よりやゝ後方に存在し, 噴水孔の長径は眼径よりわずかに短い。背鰭は2基ともに良く離れ, 萎縮した尾鰭とも離れている。体盤背面は全域にわたつて小棘が密在し, 眼の後方背中線にも第2背鰭に至るまで縦列の大棘が存在する。この棘列の左右鰓部域におのおの2棘が認められる。体色は背面暗褐色, 腹面白色で, 体盤後部のみ暗色で汚染されている。

新潟県水産試験場所蔵の2尾の中, 全長218.5mmのものを記載に用いた(310m, 1953年12月6日)。やゝまれて石山教授の同定を得た。

### Family Syngnathidae

Genus *Trachyrhamphus* KAUP, 1856

\* 本間義治, 1952: 新潟県魚類目録, 魚雑, ii, pp. 138-145, pp. 220-229.

\*\* 1954: 新潟県魚類目録補訂(I), 同上, iv, pp. 212-217.

2. *Trachyramphus serratus* (TEMMINCK et SCHLEGEL), ヒフキヨウジ  
*Syngnathus serratus* TEMMINCK et SCHLEGEL, 1850, Fauna Japonica Poiss., p. 272, pl. 120,  
 fig. 4, Nagasaki.

産地: 佐渡両津湾(本州中部以南, 支那海, 印度洋等)

全長 99.5mm および 62.7mm のもの 2 尾。両津高等学校寄贈。

#### Family Lutjanidae

Genus *Lutjanus* BLOCH, 1790

3. *Lutjanus vitta* (QUOY et GAIMARD), ヨコスジフエダイ, タルミ  
*Serranus vitta* QUOY et GAIMARD, 1824, Voy. Uranie, ii, pp. 315, pl. 58, fig. 3, Waigiu.

産地: 新潟沖(本州中部以南から濠洲, ポリネシア, 東印度諸島)

D. X, 13; P. 14; V. I, 5; A. III, 8; 側線鱗数 53。体長は頭長の 2.58 倍; 体高の 2.66 倍; 頭長は吻長の 3.20 倍; 眼径の 3.75 倍; 両眼間隔の 5.24 倍。体はやゝ長く側扁する。体側に黒褐色の 1 縦線があつて, 吻端から眼を横切り, 側線の中中部で 1 大黒斑となつて終り, 後方は淡くなる。体の上部は黄褐色, 下方は淡い。

筆者採集のもの 1 尾(1946 年 10 月 17 日)。体長 85.0 mm。日本海側の従来の分布は, 富山湾までで, 新産地として報告する。

#### Family Labridae

Genus *Duymaeria* BLEEKER, 1856

4. *Duymaeria flagellifera* (CUVIER et VALENCIENNES), オハグロベラ  
*Ctenolabrus flagellifer* CUVIER et VALENCIENNES, 1837; Hist. Nat. Poiss., xiii, p. 240, no locality, male.

産地: 佐渡両津湾(本州中部以南, 朝鮮南部, 台湾, フィリッピン, メラネシア, ポリネシア等)

D. K, 11; P. 13; V. I, 5; A. III, 9; 側線鱗数 23 枚。鰓蓋前骨後縁は, 小鋸歯を形成する。

両津高等学校寄贈の雄魚 1 尾。体長 56.0 mm。(その後, 大佐渡沿岸で多数採集)

#### Family Scorpaenidae

Genus *Sebastes* CUVIER, 1829

5. *Sebastes itinus* (JORDAN et STARKS), ヤナギメバル  
*Sebastes itinus* JORDAN et STARKS, 1904, Proc. U. S. Nat. Mus., xxvii, p. 99, fig. 1, Hakodate.

産地: 佐渡水津沖(本州東北部の塩釜, 宮古などから北海道の函館, 室蘭)

D. XIII, 13; P. 18; V. I, 5; A. III, 8; 側線鱗数 57 枚。新潟県水産試験場所蔵のもの 1 尾。体長は 310 mm で, 体長と頭長ならびに体高との比が幾分小なるほかは, 松原(1943)の記載と大綱は一致する。

#### Family Cottidae

Genus *Ainocottus* JORDAN et STARKS, 1904

6. *Ainocottus ensiger* JORDAN et STARKS, ヤリカジカ, ナベコワシ  
*Ainocottus ensiger* JORDAN et STARKS, 1904, Proc. U. S. Nat. Mus., xxvii, p. 283, fig. 23, Hakodate.

産地：佐渡沖（北日本に分布）

D. X, 14; P. 17; V. I, 3; A. 12; 鰓蓋前骨に4棘あり，その最上棘は最大かつ，最長で直走する。

新潟県水産試験場所蔵のもの1尾。体長437mmですこぶる大きく県内水域での漁獲はむしろまれ。

Genus *Malacocottus* BEAN, 1890

7. *Malacocottus gibber* SAKAMOTO—MATSUBARA, セツパリカジカ

*Malacocottus gibber* SAKAMOTO, 1930, Jour. Imp. Fish. Inst., xxvi, p. 15, with one fig, Toyama Bay.

産地：佐渡鷺崎沖（富山湾の魚津；滑川沖）

D. VIII~K, 15~16; P. 21~23; V. I, 3; A. 13; C. 22; 体長は、頭長の2.25~2.52倍；体高の3.04~3.44倍；頭長は吻長の3.16~3.59倍；眼径の3.93~4.07倍。側線孔16~17。体は太く短かく、背鰭棘部で大いに昂起する。背鰭は連続し、鰭膜で続けられる他、軟条部との間に深い欠刻をつくる。頭骨は軟かく、皮中に没する9個の疣状突起を有するが、鼻棘はない。鰓蓋前骨にも皮中に没する3棘あるほか下方にも鋭い突出あり、この中上方の2棘は斜上方に向い、特に真中の棘は鋭く突出する。鰓蓋部後端は柔軟な突出となる。体は柔軟で無鱗、薄い弱い皮膚で蔽われる。両顎に絨毛歯の広帯あるほかに歯はない。体は全体暗灰褐色で鰭はいずれも黒褐色を呈する。

筆者採集のもの3尾（250ヒロ。1953年10月14日）。体長はそれぞれ137mm, 141mm, 151mm。従来富山湾から知られているのみで深海性。

Genus *Furcina* JORDAN et STARKS, 1904

8. *Furcina oshimai*\* JORDAN et STARKS, キヌカジカ

*Furcina oshimae* JORDAN et STARKS, 1904, Proc. U.S. Nat. Mus., xxvii, p. 305, fig. 33, Hakodate.

産地：佐渡両津湾（中部日本から北日本にかけて分布）

D. X+17~18; P. 14; V. I, 2; A. 14~15; 両津高等学校寄贈の全長36mmから56mmまでの標本10尾。（その後大佐渡沿岸で多数採集）

Genus *Pseudoblennius* TEMMINCK et SCHLEGEL, 1850

9. *Pseudoblennius zonostigma* JORDAN et STARKS, オビアナハゼ

*Pseudoblennius zonostigma* JORDAN et STARKS, 1904, Proc. U.S. Nat. Mus., xxvii, p. 312, fig. 35, Misaki, Sagami.

産地：佐渡両津湾（三崎、長崎など本州沿岸）

D. X+19, P. 15, V. 2; A. 17; 鼻棘は無く絨毛歯を有する。両津高等学校寄贈の全長45.7mmおよび54.0mmのもの2尾。

## Family Agonidae

Genus *Hypsagonus* GILL, 1861

10. *Hypsagonus quadricornis* (CUVIER et VALENCIENNES), ツノシャチウオ

*Aspidophorus quadricornis* CUVIER et VALENCIENNES, 1829, Hist. Nat. Poiss., iv, p. 221, Kamchatka.

産地：越後角田沖，佐渡水津沖（北太平洋，カムチャツカ，ベーリング海，アラスカ沿岸プリートル湾）

D. K+6, P. 5+7（遊離）；V. I, 1；A. 9；C. 11；体側棘は上列28；下列28~29；吻触

\* 人名よりなる種名の語尾の *e* は新命名規約により *i* に改める。

鬚約 5mm。体長は頭長の 3.29~3.39 倍；体高の 3.25~3.41 倍；頭長は吻長の 3.83~4.00 倍；眼径の 2.88 倍。第 1 背鰭は背部隆起の頂部にあり，第 2 背鰭は次の隆起の頂部にある。体高は高く，頭長と同大若しくは僅かに大。鋭く大きい眼上棘と後頭骨棘がおのおの 1 対あるほか鰓蓋前骨にも 5 棘ある。体色は暗褐色で，各鰭部および体側に巾広い褐色帯が 4 個ある。尾鰭は上縁短かく，下縁長い梯形を形成し，その後縁にも濃褐色帯が存在する。側線孔は明瞭。

新潟県水産試験場所蔵のもの 2 尾，筆者採集のもの 1 尾。本州西海岸の，ことに中部日本海水域より獲れたことは珍らしく，未報告と思われる。

Family Champsodontidae

Genus *Champsodon* GÜNTHER, 1867

11. *Champsodon snyderi* FRANZ, ワニギス

*Champsodon snyderi* FRANZ, 1910, Abh. Bayer Akad., p. 82, pl. 9, fig. 74, Fukuura: Misaki, Sagami; Yagoshima.

産地：粟島沖（相模灘，熊野灘，高知沖，富山湾，フィリッピン，アラフラ海）

D. V+20; P. 12; V. I, 5; A. 19; C. 21; 体は腹部を除き剥離しやすい粗雑な鱗で蔽われている。体上半は暗灰色，腹方は銀白色で輝く。眼はいちじるしく頂部にあり，口は斜位。

筆者採集のもの 2 尾（60 ヒロ。1953 年 12 月 20 日）。体長 75.0 mm および 54.0 mm，日本海側の従来の分布は富山湾までであり，新産地として報告する。漁獲も決して稀れてない。

Family Pleuronectidae

Genus *Acanthopsetta*, SCHMIDT, 1903

12. *Acanthopsetta nadeshnyi* SCHMIDT, ウロコメガレイ，トゲガレイ

*Acanthopsetta nadeshnyi* SCHMIDT, 1903, Faune Mer. Ochotsk, Jap., p. 19, Japan Sea; Vladivostok; mouth of Amur, etc.

産地：佐渡両津湾口（樺太から福井県沿岸に至る日本海岸，朝鮮海岸，オホーツク海，ウラジオストック，ピーター大帝湾，噴火湾）

D. 75; P. 10; V. 6; A. 59; C. 18; 側線鱗数 80。体長は頭長の 3.15 倍；体高の 2.36 倍；頭長は吻長の 4.54 倍；眼径の 3.28 倍；上顎の 2.88 倍；有眼側胸鰭長の 1.90 倍；無眼側の 2.36 倍。側線弧の中は 40mm。両眼および上顎主骨を含む吻部に小櫛鱗を有する。下顎先端は突出する。

筆者採集のもの 1 尾（280 ヒロ。1953 年 10 月 25 日）。まれである。

なお本誌 2 巻 4/5 号, p. 223, 283. *Brachyopsis rostratus* (TILSIIUS) は精査の結果ひとまずこれを除くことにする。また，著者が本誌（前出）に掲載した目録中の大半の標本は，保管校新潟県立新潟高等学校の全焼により一切灰燼に帰した（1954 年 4 月 4 日）。真に遺憾にたえない次第である。

文 献

さきに本誌に掲載したものは除く。

JORDAN, D.S. and E.C. STARKS, 1904: A review of the Cottidae or sculpins found in the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., xxvii, 231-335.

片山正夫, 1940: 日本海底曳漁魚類の研究（第一報）. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 第 6 号, pp. 1-5.

黒田長礼, 1952: 稀魚の生活色に就いて. 魚雑, ii, 128-133, 214-219.

SAKAMOTO, K. 1930: Two new species of fishes from the Japan Sea. Jour. Imp. Fish. Inst.,

xxvi, 15-19.

TANAKA, S. 1908 : On a small collection of tide-pool fishes from Misaki, with descriptions of two new species. *Annot. Zool. Jap.*, vii, 17-26.

### Résumé

In this notes the author has enumerated twelve unrecorded species of fishes with brief descriptions, to be added into the ichthyo-fauna of Province Echigo and Sado Island of the Japan Sea.

Among these fishes, there are eight offshore bottom fishes, which were caught by motor trawler on the northern fishing grounds of this region.

They are :

1. *Brevitaja isoirachys* (GÜNTHER)
2. *Lutjanus vitta* (QUOY et GAIMARD)
3. *Sebastes itinus* (JORDAN et STARKS)
4. *Ainocottus ensiger* JORDAN et STARKS
5. *Malacocottus gibber* SAKAMOTO-MATSUBARA

Three examples. This was known only from Toyama Bay previously.

6. *Hypsagonus quadricornis* (CUVIER et VALENCIENNES)

Three examples. This species has never been recorded from the western coast of the main land of Japan.

7. *Champsodon snyderi* FRANZ

Not very rare.

8. *Acanthopsetta nadeshnyi* SCHMIDT

Rather rare.

Following four species of shore fishes were caught on the coast of Ryotsu Bay, Sado Island, which are also unrecorded from this region.

9. *Trachyrhamphus serratus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
10. *Duymaeria flagellifera* (CUVIER et VALENCIENNES)
11. *Furcina oshimai* JORDAN et STARKS
12. *Pseudoblennius zonostigma* JORDAN et STARKS